

## 不登校児のための故郷村の設計 Hometown design for school refusal children

佐藤信治<sup>1</sup>, ○宇津里緒奈<sup>2</sup>  
Shinji Satou<sup>1</sup>, \*Riona Utsu<sup>2</sup>

Various children have the feeling of "I don't want to go to school," and from this one word, children stop going to school and not interacting with others, and there are also children who choose to die.

In Japan, junior high school students tend to be about 970,000, and 1 out of 36 students are out of school. I am trying to protect myself with the power to keep in harmony with others, such as reading, sensing, and adjusting to the surroundings. There are many children.

Nowadays, children are a property for Japanese society, and children should not choose to commit suicide in order to inherit the future society and traditions. We need a place where we can change our current environment and find a new one.

The planned site is for remote islands where depopulation is becoming increasingly serious, and islands that continue to decline will become uninhabited islands that are not managed by residents. While the area is prosperous as a tourist destination, the number of settlers is decreasing year by year, but it attracts tourists. I wanted to apply.

Specifically, by creating a place where children seek on an island seeking children, it becomes a daily escape for children, and that place gradually turns into a home for children. Propose an architecture in which nature will re-start life and become an attached home.

### 1. はじめに

様々な子供たちが「学校に行きたくない」という感情を持っている。この一言から子供たちは学校に行かなくなり、人と関わらなくなる。さらに、死を選択する子供も存在する。

現在の日本は中学生が約 97 万人、36 人に 1 人が不登校になっている傾向である。日本は同調圧力が強く、みんな一緒に学習・教育システムによって不登校児童生徒を量産するようになってしまっている。そして、空気を読む・察する・周囲に合わせるなど他者との調和を保つ力によって身を守ろうとしている。さらに、おもてなし文化の型に収まりきれず居場所を失っている子供たちが多く存在している。

少子高齢化が重要視されている今、日本社会にとって子供は財産である。そして、この先社会や伝統を受け継いでもらうためには子供自身に自殺を選択させてはいけない。不登校になった子供達は今過ごしている環境を変え、新たな自分を見つけられる場所が必要不可欠である。

計画敷地は現在、過疎化が深刻化されている離島を対象とする。人口が減少し続ける離島は今後、無人化島として住人によって管理されない島へと行って行く。東京都に位置する新島村は観光地として栄えている一方、観光客を惹きつける魅力はあるものの定住者は年々減少している。そこで、島内にある小学校・中学生・

高等学校に転校生を呼びよせることで過疎化に歯止めをかけたいと考えた。

具体的には子供を求めている島で子供たちが求めている居場所をつくることで、子供達にとってはそこが日常の逃げ場となる。そして、その場が子供たちにとって次第に故郷へと変わってくるだろう。自然が人生を再スタートさせ、愛着がある故郷になる建築を提案する。

### 2. 計画背景

#### 2.1 不登校児の現状

「不登校児童生徒」とは「何らかの 心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間 30 日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」と定義している。

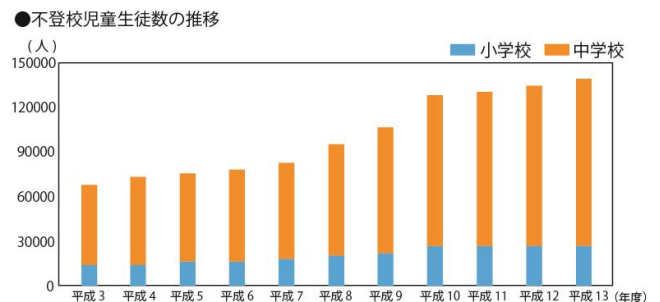


Figure 1 Number of non-attendance school

1: 日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

2: 日大理工・学部4年・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

## 2.2 不登校児の特徴

不登校児となったきっかけとして、小学校・中学校では不安などの情緒的混乱、無気力、親子関係をめぐる問題が多い。そして、高等学校では無気力、不安など情緒的混乱、遊び・非行によって不登校になっている。しかし、不登校児の多くは、知性が高く感性も豊かな子が多い。さらに、優しい性格であり努力家で勉強熱心な子がたくさんいる。学びに対して興味を持ってないわけではなく自分に適した教育環境を求めている人が多く存在する。

## 2.3 子供たちの居場所

不登校になってしまうと家に引きこもってしまう。しかし虐待を受けた子供たちは、「家の中に居場所がない」と感じたことがあるが 10.9%いる。約 1 割の子供たちは家が居場所となっていない。家庭の虐待は裏で隠され現状が分からない。また、児童相談所に相談するが、結局一時保護所もいっぱいですぐに家に戻されてしまう。そして、また家から逃げ出す。その繰り返しである。

また、児童養護施設で暮らしている子供たちは 18 歳で施設を出て行かなければならない。18 歳でルールに縛られていた施設から自由な世の中に追い出され、自分の居場所がなくなる。さらに児童養護施設で暮らしている子供が不登校になってしまったら居場所があるのか。児童養護施設にいる子供たちは、施設に入ってから施設を出る未来を考えないといけないため児童養護施設は生きる戦いと言われている。

## 2.4 遊びの変化

かつて日本は道や空き地が遊びの中心だった。また、異年齢の集団形成だったが、子供が減り始め遊び集団は同学年化・同年齢化していく。子供たちの生活時間は学校・塾・家を回るだけの細分化が行われ、仲間と群れて遊ぶ時間共有ができなくなっている。道や空き地が遊びの空間でない今、子供たちの溜まれる場所がなく、子供同士広く浅い関係が生まれる。

## 3. 計画敷地



Figure 2 Planned site

## 3.1 2島からなる新島村

新島村は、本土から 3 番目に位置する新島と式根島の 2 島からなる伊豆諸島に属する村である。人口は 2,722 人であり、地域ごとで見ると、本村地区は男 924 人、女 971 人。若郷地区は男 151 人、女 153 人。式根島地区は男 250 人、女 273 人である。

## 3.2 新島村の子供たち

新島には小学校 1 校、中学校 1 校、高等学校 1 校がある。式根島に住んでいる子供たちは、高等学校へ通うために新島へ船で渡っている。

## 3.3 災害の現状

伊豆諸島、小笠原諸島の台風接近数の平年値は 5.4 回であり、沖縄の次に多い。2019 年 9 月 9 日に起きた台風 15 号によって新島村は大きな災害に覆われた。

## 4. 建築計画

### 4.1 船とともに過ごす住宅形

竹芝栈橋から船でやってきた子供たちはそのまま住まいへとたどり着く。交通手段として使用した船は常に住まいと関わりを持ち、再び竹芝栈橋へ戻っていく子供たちを見送る。また、式根島に住んでいる子供たちはみんなの家が新島へ入る門のような存在になる。

### 4.2 自立心を育む環境と日常知を学ぶ教育環境

島はそれぞれ独自の伝統が存在している。島でしか体験できないことを島の大人と行うことで、子供たちは新しい知識を学ぶことができる。日常通う学校と住宅の間に位置する空地に「島学」を学ぶ施設を設けることで学校知と日常知に区切りが生まれる。



Figure3 Diagram

### 4.3 災害から守るシェル構造

風の抵抗を受けにくいシェル構造にすることで、通常の場所であれば台風でもびくともしない。また、風を受け流すため風の被害を受けない。

## 5. 参考文献

- [1] [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/futoukou/03070701/002.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/futoukou/03070701/002.pdf)
- [2] <https://www.niijima.com/kankou/index.html>
- [3] 「こどもを育む環境 蝕む環境」, 仙田満 発行年 2018 年 4 月 25 日。